

令和3・4年度「学びの深化プロジェクト実施校」実績報告書（1年次）

1 学校名等

学 校 名	京田辺市立普賢寺小学校							校長名	畑中 佳美	
研究教科・領域等	全教科・領域等									
研 究 主 題	子どもの「やってみたい!」「なるほど」を大切にした授業づくり									
研究の目的	思考ツール、タブレット端末を活用し、自分の考えを明確にしたり、他者の考えを受け取り深化させたりする協同的探究型の授業改善を行うことにより、主体的、協働的に学習に取り組む児童を育成する。									
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援	合 計	教職員数	
学 級 数	1	1	1	1	1	1	1	7	14	
児童生徒数	18	19	20	15	19	14	2	107		

2 研究校の概要

本校の児童は、全国学力・学習状況調査の結果から、国語科、算数科ともほぼ全国平均の学力を有するととらえることができる。児童質問紙より「自分には、よいところがあると思いますか」の項目で「あまり思わない」6.7%、「思わない」20.0%、「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の項目で「あまり思わない」20.0%、「算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか」の項目で「そう思わない」26.7%といった結果であった。

また、校内で実施している児童アンケートの結果からは、自分の「すてき」に気づけない、認められない等、自己肯定感の低さが窺われた。「自分のがんばっているところやよいところを見つけることができる」（児童）の項目では、「そう思う」44%、「まあまあそう思う」36%、「あまりそう思わない」16%、「そう思わない」4%、「自己肯定感が高まり楽しく学校生活を送っている」（保護者）「そう思う」40%、「まあまあそう思う」51%、「そう思わない」9%という結果が見られた。

アンケート等をもとに児童が「やってみたい!」と意欲的にものごとに立ち向かう力をつけること、「やってみたい!」と思える授業改善を図ることが本校にとって必要な取組と考えた。

本校では平成31年度、令和2年度の2年間、思考ツールを用いて話し合い活動をしたり、グループワークを積極的に取り入れたりしながら、児童が協働・対話を通して考えを広げ、深められるように研究を進めてきた。その結果、思考ツールによって児童それぞれの思考を明確にし、可視化、整理することで協働的・対話的な活動を促進できたが、相手の考えや意見を受け入れて新しい考えを生み出したりする力には課題が残った。

そこで、今までの研究をベースに、「自分の『やってみたい!』を見付け、主体的に課題にかかわる子」「協働・対話をしながら他者の考えを『なるほど!』と受け入れたり、考えを練り合ったりして課題解決をしようとする子」を目指す児童の姿とし、児童の「やってみたい!」「なるほど!」を引き出せるような授業改善と取組について研究を進めることとした。

3 主な研究活動

つながりトーク

(1) つながりトークの取組 (対話レッスン)

「自分の考えを相手に伝える」
「相手の考えを聞く」、という対話的、協働的な学習を進めるための大切な力の育成のため、「つながりトーク」の取組を朝学習の時間に行った。その際、考えを可視化したり操作したりするためのツールとして ICT 端末も活用した。

学年	目標
1・2年	<ul style="list-style-type: none"> ・人前で話すことに慣れる。 ・人の話を聞く態度を身に付ける。
3・4年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをまとめることができる。 ・自分の言葉で話す。 ・集中して聞く。 ・質問する力を身に付ける。 ・考えを伝え合うことを通して、集団としての考えを形成する。
5・6年	<ul style="list-style-type: none"> ・人にわかりやすく伝わるような話し方で自分の考えを話す。 ・人の意見を聞いて、自分の考えを深める。 ・人の意見を自分の考えと比べながら聞く力を付ける。 ・目的や場面、状況に応じて考えを伝え合い、集団としての考えを形成する。

(2) ルーブリックの活用

児童が目標をもって学習活動に取り組めるよう、「話し合いルーブリック」「振り返りルーブリック」を作成・活用した。

ア 話し合いルーブリック

	低学年	中学年	高学年
S		<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの考えに触れながら、自分の学びの深まりや考えを書いている。 ・自分の考えがどのように変わったか、自分の成長を書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの考えに触れながら、自分の学びの深まりや考えを書いている。 ・自分の考えがどのように変わったか、自分の成長を書いている。
A	<ul style="list-style-type: none"> ・わかったこと ・がんばったこと ・できるようになったことを書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・～がわかった。 ・～をがんばった。 ・～ができた。 ・～ができるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの考えに触れながら、自分の学びの深まりや考えを書いている。 ・自分の考えがどのように変わったか、自分の成長を書いている。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・がんばったことを書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・～をした。 ・～をがんばった。 ・～がむずかしかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・わかったこと、がんばったこと、できるようになったことを書いている。

イ 振り返りルーブリック

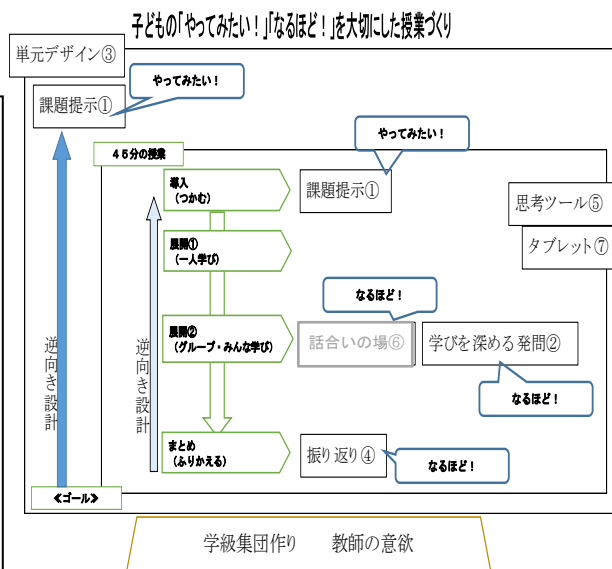
	低学年	中学年	高学年
S		<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの考えに触れながら、自分の学びの深まりや考えを書いている。 ・自分の考えがどのように変わったか、自分の成長を書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの考えに触れながら、自分の学びの深まりや考えを書いている。 ・自分の考えがどのように変わったか、自分の成長を書いている。
A	<ul style="list-style-type: none"> ・わかったこと ・がんばったこと ・できるようになったことを書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・～がわかった。 ・～をがんばった。 ・～ができた。 ・～ができるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの考えに触れながら、自分の学びの深まりや考えを書いている。 ・自分の考えがどのように変わったか、自分の成長を書いている。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・がんばったことを書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・～をした。 ・～をがんばった。 ・～がむずかしかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・わかったこと、がんばったこと、できるようになったことを書いている。

(3) 授業改善

やましろ授業スタンダードを参考に、基本の授業展開を確認した。そして「やってみたい!」「なるほど!」となる様子を、具体的な児童の姿で共有しながら、授業づくりに必要な要素を話し合った。

授業づくりに必要な要素

- ・写真や挿絵など、教材提示でイメージがわく⇒ICT 端末の活用
- ・ゴールが見える、わかる ⇒単元デザイン
- ・担任がやってみたいと熱意をもっている ⇒教師の意欲
- ・課題に必要性がある ⇒課題提示の工夫
- ・自分とちがう意見が出る ⇒話し合いの場の工夫、思考ツール
- ・当たり前を揺さぶられる(意外性を感じさせる) ⇒ 学びを深める発問等



ふげんじモデル1 (展開)

それらを授業づくりの視点として、①課題提示の工夫 ②発問の工夫 ③単元デザイン ④振り返りの充実 ⑤思考ツールの活用 ⑥話し合いの場の工夫 ⑦ICT 端末の活用の7点にまとめた。また、「学級集団づくり」や「教師の指導力・意欲」は授業改善に欠かせない根拠として、「ふげんじモデル1 (展開)」「ふげんじモデル2 (「やってみたい!」「なるほど!」の木)」を作成した。さらに授業事後研の協議から明らかになった各視点のポイントを「ふげんじモデル2」に整理し、更新を図った。(次頁 ふげんじモデル2)

4 今年度の研究の成果と検証

- (1) 授業づくりを「普賢寺モデル」としてまとめることで、単元全体を見通し1時間ごとのめあてを設定し7つの視点を組み合わせる等、日々の授業の改善に活かすことができた。
- (2) 話し合いの場では、意見交換なのか深めるのか等、目的をはっきりさせることができた。
- (3) 上記の取組により、2学期末の児童アンケートでは、「『やってみよう!』と自分から進んで学ぼうとしている」の項目や「『なるほど!』など、考えを深めることができる」の項目で、8割以上の児童に肯定的な意見が見られた。

5 今年度の課題

- ・今まで学んだ見方・考え方とつなげて「なるほど」と思える児童が増えたが、自分なりの新たな答えを導き出すという力に弱さが見られた。

6 2年次の研究構想

- ・「メタ認知」を働かせる学習を取り入れた授業づくりを行い、児童の「やってみたい!」「なるほど!」をさらに引き出していきたい。
- ・「なるほど!」「やってみたい!」をどのように捉え、児童の具体的な姿に落とし込むことにより、新たな授業改善を推進する。

課題提示①

- ・相手意識をもたせる題材名の工夫を行う。
- ・イメージしやすい具体物（写真、挿絵など）や、日常生活で児童が体験している題材を取り上げたりする。
- ・児童の「やってみよう」から課題を設定する。
- ・自分のめあて、集団のめあて、ルーブリックを共有する。

単元デザイン③

- ・題材名を工夫する。
- ・ルーブリックを作成する。
- ・単元で付けたい力を明確にできる。（逆向き設計）
- ・単元を見通した授業を構成することで、毎時間のめあて、評価観点を明確にした授業展開ができる。
- ・「一つのつながり」「一つの流れ」として捉えることができる。
- ・単元ゴールで付けたい力を重視した授業。

学びを深める発問②

- ・当たり前を揺さぶる問いで深める。（意外性）
- ・自分と違う意見の出会い。
- ・点と点が線でつながるような発問。

やってみよう！

なるほど！

なるほど！

やってみよう！

学級集団づくり

教師の意欲

思考ツール⑤

- ・考えを可視化する。
- ・ツールに様々な種類があり、自由度がある。
- ・思考の型が分かりやすい。
- ・共通意見、相違点など考えをまとめたり比べたりしやすい。
- ・考える視点が明確になる。

振り返り④

- ・具体的な視点をもたせる。
めあての達成具合
大切にしたいと思った考え方
学習過程において理解できた瞬間
友だちの意見で参考になったこと
- ・次回につながる課題設定。
- ・チェック項目による振り返り。
- ・単元目標とつながる振り返り。

話し合いの場⑥

- ・ワールドカフェなど形態の工夫。
- ・アウトプットし、友だちと一緒に、自分の考えを確認する。
- ・日常的な話し合い活動を通してスムーズに話し合いができるようにする。（つながりトークで練習）
順番に自分の考えを言う。→深めたいことを話しあう。
- ・グループで話す必然性を明確にした話し合いの場づくり。
- ・話し合いの目的を明確にして話す。（意見交換なのか、深めるのか）
- ・話し合うためのツールの充実。（作戦ボード、動画など）

ICT 端末⑦

- ・やってみようと思える資料の提示。
- ・見たいポイントを繰り返し見ることができる。
- ・考えを伝える時の使用として提示することができる。
- ・ICT 端末を見て個別に確認する時間、資料として話し手が活用する時間（話し合いの時）など、活用方法を明確にする。
- ・見る視点を明確にして動画を見る。
- ・グループで使う時は台数を絞って使用する。